

# SEVEN HILLS

The magazine for high net worth individuals

香港&マカオの女王は語る  
建築家とつくるエコハウス  
世界に羽ばたく国際教育

セブンヒルズ  
世界を舞台に活躍する  
資産家のための  
マネー&カルチャー誌

## 11

NOVEMBER 2008 Vol.044

特集

カントリー  
ライフ  
の誘惑

## The Lure of a Country Life

SEVEN HILLS 11

特集 カントリーライフの誘惑

SEVEN HILLS 11

セブンヒルズ 第四十四号 二〇〇八年九月二十五日発行 毎月一回(二十五日発行) 編集・発行人 白井有文 編集長 栗原伸介 発行(株)イ・マーケティング 〒107-0062 東京都港区南青山1-10-2 南青山Aビル2F TEL 03-5772-3341

2008 Vol.044

e-MARKETING  
The Success of Advertising

定価 2,100円(税込)

ISBN978-4-903658-22-3 C0033 ¥2000E



総客室600室と375のカジノテーブル、900台のスロットマシンなどを誇るMGM グランドマカオ。ラスベガスのカジノホテル、MGM グランドを有するMGM ミラージュ社とパンシー・ホー氏の50:50の共同事業により2007年12月にオープンした

## Interview *Celebrity*-23

——マカオには何度も足を運んでいるのですが、来る度に変化を遂げています。近年多くのプロパティがマカオに進出していますが、マネージングディレクターを務めていらっしゃるMGM グランドマカオは日本でも話題に上っています。改めてその魅力を教えてください。

まずは、MGM グランドマカオによること。このカジノホテルは3つの箱を重ねたようなユニークなデザイン性からもマカオの新しいアイコンになると確信しています。成熟した西欧文化に触れている日本の方々は素晴らしい感覚をお持ちだと思いますので、まずこのホテルのアーティスティックな部分を楽しんでいただきたいと思います。

MGM グランドマカオでは優雅で贅沢な滞在を約束していきたいと思っており、特にVIPの方向けに用意した16室のカジノルームを集めたものとなっています。

——マカオは今後どのように変貌を遂げていくと考えていらっしゃいますか。

マカオには新旧、そして東西の多くの対照的な文化が混在し、共存しています。それが一番の魅力ではないかと思っています。文化の交差点ともいえるでしょうか。

# Pansy Ho

パンシー・ホー

MGM グランド・パラダイス代表取締役社長

香港生まれ。父はカジノ王として知られるスタンレー・ホー氏。幼少時よりビジネスセンスに優れ、マカオ経済を担う信徳グループ代表取締役社長など要職を歴任。MGM グランドにサブライゼンスを提供し、MGM グランドマカオをオープンさせる。MGM グランド・パラダイス代表取締役社長に就任。マカオ、香港、中国本土で多くの企業・団体の代表を務め、多忙を極めていく

——マカオには何度も足を運んでいるのですが、来る度に変化を遂げています。近年多くのプロパティがマカオに進出していますが、マネージングディレクターを務めていらっしゃるMGM グランドマカオは日本でも話題に上っています。改めてその魅力を教えてください。

まずは、MGM グランドマカオによること。このカジノホテルは3つの箱を重ねたようなユニークなデザイン性からもマカオの新しいアイコンになると確信しています。成熟した西欧文化に触れている日本の方々は素晴らしい感覚をお持ちだと思いますので、まずこのホテルのアーティスティックな部分を楽しんでいただきたいと思います。

MGM グランドマカオでは優雅で贅沢な滞在を約束していきたいと思っており、特にVIPの方向けに用意した16室のカジノルームを集めたものとなっています。

——マカオは今後どのように変貌を遂げていくと考えていらっしゃいますか。

マカオには新旧、そして東西の多くの対照的な文化が混在し、共存しています。それが一番の魅力ではないかと思っています。文化の交差点ともいえるでしょうか。

2007年にはついに観光客数が1260万人にまで膨れ上がり、前年比7%以上の成長を遂げています。対外投資と同様、中国政府も積極的にバックアップ



カジノ王として世界にその名を轟かすスタンレー・ホーを父に持ち、「フォーチュン」誌が選ぶ「世界に影響力を及ぼすビジネスウーマン50人」に選出されているパンシー・ホー。昨年12月に世界中の話題となったマカオのメガホテルMGM グランドマカオを有する、MGM グランド・パラダイスの代表取締役など、代表を務める企業が10以上もある。香港でその名を知らない人はいないこの美しきクイーンに、変貌を遂げているマカオ、そして躍進する香港ビジネスの原動力を聞いた。

矢幡聡子/インタビュー 野地康之/写真 SEVEN HILLS/文  
Interview by Satoko Yahata Photographs by Yasuyuki Noji Text by SEVEN HILLS



矢幡 聡子 やはた・さとこ  
CORE SLTD. 代表取締役。聖心女子学院卒業後、スイス、フランスへ留学。欧州国連本部、小谷正一事務所を経てCORE SLTD.を設立。主な仕事は、国際文化交流事業の企画運営。PRコンサルタント、衛星テレビのプロデューサー、エッセイストとしても活躍。国連難民高等弁務官事務所 (UNHCR) 国内委員会理事

恒例のラッキードロワーも開催。収益金はテーブルチャージとともにグループの活動資金に回される。写真下は、バンシー・ホー氏。グループの役員を務めている



# Charity Reunion Dinner of Former Chairmen & Directors

In Celebration of 138th Anniversary of TWGHs

本誌40号でご紹介した香港で最古の、そして最大のNPO組織である東華病院グループの138周年ガラパーティーが行われた。この日集ったのは歴代の役員たち、つまり香港、そして中国経済を動かす多くのビジネスエグゼクティブだ。ヘンリー・タン氏、現会長である馬清鏗・パトリック氏がホスト役となり、スタンレー・ホー氏、バンシー・ホー氏など、多くのVIPがまばゆいフラッシュの中、登場。1856年から続く相互補助の精神が一際輝きを放った一夜取材した。

SEVEN HILLS / 取材・文 野地康之 / 写真  
Text by SEVEN HILLS Photographs by Yasuyuki Noji

## 東華138周年記念 之賢仁匯聚獻愛心



本誌編集主幹の矢嶋聡子も出席。パトリック氏とヘンリー・タン氏とともに



スタンレー・ホー氏が登場すると、メディアが一斉に駆け寄り、フラッシュの嵐に



2005年度のグループ代表を務めた王定一氏(写真右)ら、歴代の役員が勢ぞろいした



朱色のネクタイは、東華病院グループの役員たち。会場となったグランドハイアット香港は多くのゲストを招き、熱気に溢れた

# カントリーライフの誘惑

車、携帯、コンピューター……。ふと周囲を見回すと21世紀の文明にとり囲まれている私たちの日常。豪華な建物に住み、高価なジュエリーを身に付けていても身体、そして心の「本能」の部分で私たちは自然を求め続けている。

全ての贅沢に飽きた方へ、最高の極地であるカントリーライフへと誘いたい。



CHAPTER 1,  
INDONESIA  
BALI



# 椰子の木陰に住む。 楽園に暮らすための 心得とは

インドネシア・バリ島には“楽園の賢者たち”がいる。亜熱帯地域特有の色鮮やかな自然を自分のフィールドに取り込み、それを思い切り堪能しているのだ。突き詰めるということは何にせよ簡単なことではない。特に人工的なものではなく、自然相手ともなれば、ある種の「才能」が無いとできないこと。本誌でも何度かご紹介したジュエリーブランド、ジョン・ハーディーは、デザイナーや彫金師がウブドの自然の中に溶け込む、究極のクリエイティビリティの現場を創り上げている。今夏、再びこの地を訪れ、「世界の自然に生きる」、その指南を受けた。

SEVEN HILLS / 取材・文 野地康之 / 写真  
Text by SEVEN HILLS Photograph by Yasuyuki Noji

稲が植えられた水田の上に建つジョン・ハーディーのショールーム。完全アポイントメント制となっており、ゆっくりと“できたて”の新作を見ることができ。ジュエリーのみではなく、様々なファブリックも生み出している同ブランド。特に黒椰子を使用した食器類は人気が高い



型から全て手作業でつくられ、機械は一切使用しない。チェーンも手作業で編み、組み立てている。上の二点はジョン・ハーディーの原点ともいえるデザイン。バリヒンドゥーの伝統的な文様を参考にしてデザインされている

THE LURE OF A COUNTRY LIFE  
CHAPTER 1,  
**INDONESIA  
BALI**

衆生の悟りが結果的に生産性を高める

パリの王は祭事のために彫金師を囲い、メタルミスという集落を形成していたと聞くが、そのスタイルを蘇らせているのがジョン・ハーディーだ。ウブド奥地にひっそりと佇む茅葺の扉を開けると、竹とサトウキビの葉で組み立てられたシヨールムや工房が現れる。もちろんここから生み出されるジュエリーも一切人工物を使用せずにシルバーや天然石などで創られている。NYで火がつき、世界中に販路が拡大されている今でもその工程は変わらず、チェーンの一本に至るまで自然回帰のスピリットに準じている。来年には日本にも本格上陸を果たすこのブランドの今後を本誌では引き続きご紹介していきたい。さて、「楽園に暮らすこと」とは何かをデザイナーのギー・ベタリダ氏に聞いてみた。蜜蜂でつくった椅子にもたれながらしばし目を閉じる。「雑念を捨てることかな」と、仏僧のような答えが返ってきた。衆生の悟りを開いてこそ、「自然」に暮らすことができるのだらう。







FOUR SEASONS RESORT BALI AT  
SAYAN

豊かなライステラスが広がり、原色が一層濃く感じられるアップド。そこに「降り立った」のが、フォーシーズンズホテル & リゾートバリ at サヤンだ。渓谷にかかる細長いつり橋をわたると、水盤のようなメイン棟が現れる。ジャングルの中に一軒だけ佇んでいるような感覚に陥るヴィラ。椰子が茂るプライ

目を閉じ、  
緑を感じる  
フォーシーズンズ  
随一のスパ

ベイトテラスに木々を映したブルー、何層もの緑に囲まれると、心に静寂と身体にパワーがみなぎってくるようだ。  
充電後はフォーシーズンズリゾートの中でも随一を誇るスパに出かけてみたい。グリーンシャワーを浴びながらの施術、不思議なことに目を閉じた方が緑を感じる事ができる。渓谷に突き出したメインダイニング、「アユンテラス」ではフレンチのアレンジが効いた東アジア各国の料理が楽しめる。自然の恵みが凝縮された一皿で、体内にまで緑を取り入れることができそう。



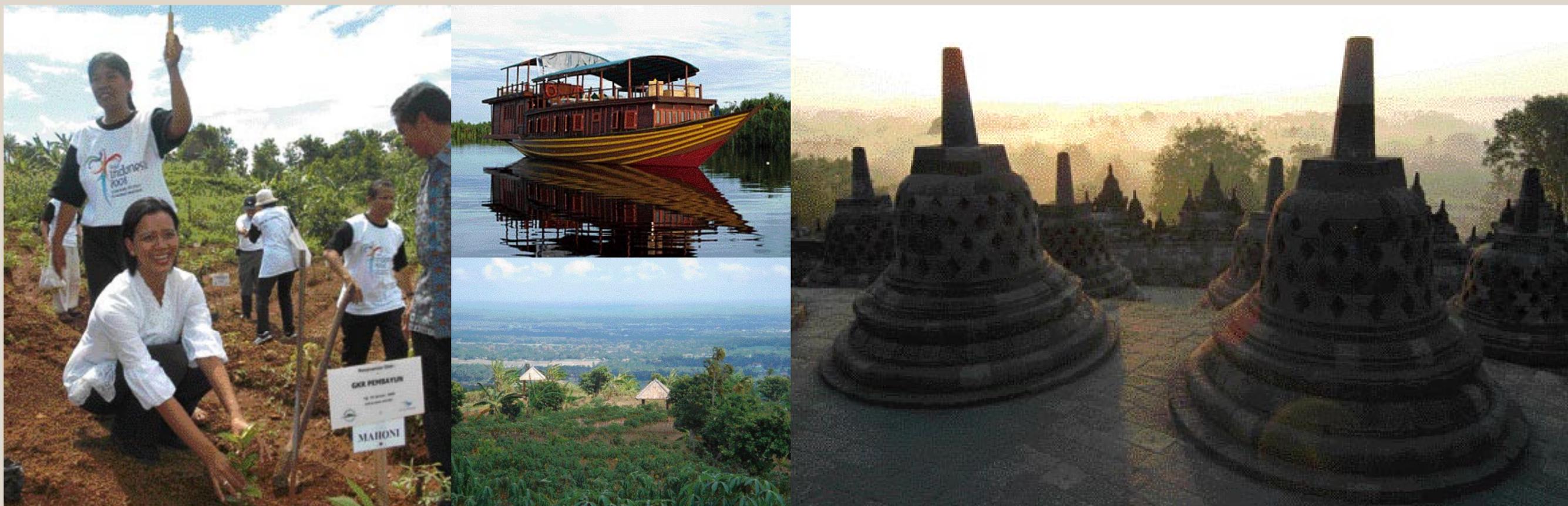
ツナステーキ、ジャガイモの冷製ポタージュなど癖のないアユンテラスの一皿。溪流の音が涼やかな絶景も楽しめる

LIVING IN NATURE.  
CHAPTER 1  
INDONESIA  
BALI

各ヴィラの間隔は広く、「ジャングルの中の軒家」という感覚だ。専用のガーデン、プール、オープンシャワー、ガゼボなど、充実の設備  
FOUR SEASONS RESORT  
Bali at Sayan  
Tel 62 361 977577 <http://www.fourseasons.com/sayan>

# INDONESIA BALI

## ガルーダ神の翼が育む母国の森林



### 運航スケジュール

(9月25日現在)

#### 成田—デンパサール線

(週7便 毎日)

成田 → デンパサール 11:00 → 17:15

デンパサール → 成田 22:00 → 08:50

冬期スケジュール(10月26日)からデンパサール発が20:30に変更予定

#### 名古屋—デンパサール線

(週3便 月・木・土)

名古屋 → デンパサール 11:00 → 16:40

デンパサール → 名古屋 01:25 → 09:10

#### 大阪—デンパサール線

(週5便 月・水・金・土・日)

大阪 → デンパサール 11:00 → 16:40

デンパサール → 大阪 00:30 → 08:00



ガルーダ・インドネシア航空会社  
〒100-0005 千代田区丸の内3-3-1新東京ビル1階  
東京支店 03-3240-6161  
名古屋支店 052-222-4771  
大阪支店 06-6635-3222  
福岡支店 092-452-8290  
URL: www.garuda-jpn.com

### 日本からバリ島までは、ガルーダ・インドネシア航空が便利です。

- バリ島はビーチリゾートばかりではありません。空港からおよそ1時間。古くからたぐさんの芸術家に愛されてきた村、ウブド。そこには緑深い渓谷に、宝石のようなヴィラが点在しています。静寂に包まれた大人のヴァカンスへ、ガルーダ・インドネシア航空がご案内します。
- ガルーダ・インドネシア航空は、東京・名古屋・大阪からバリ島まで、ノンストップで週15便運航しています。
- お昼前に日本を飛び立てば、その日の夕方にはバリ島に到着です。色鮮やかなオレンジ色に染まるトロピカルサンセットから、旅が始まります。
- 17,000余もの島を有する国、インドネシア。そこには3,000を超える異なった民族の人々の暮らしがあります。ガルーダ・インドネシア航空のネットワークは国内主要20都市を結んでおり、世界遺産ボルドール寺院のある古都ジョグジャカルタやアジア最大の都市、ジャカルタなど、その日のうちに到着できます。一歩足を延ばして、奥深いインドネシアの魅力をご堪能ください。
- ガルーダ・インドネシア航空の最大の魅力は、なんといってもインドネシアンホスピタリティ溢れるクルーのサービス。民族衣装をアレンジしたユニフォームに身を包み、艶やかな笑顔で皆さまをお迎えます。
- 尾翼には社名にもなっている「ガルーダ」をモチーフにしたロゴが描かれています。ヒンズー教の神話に登場する聖獣で、ビシュヌ神を乗せ天空を駆け巡ったとされており、インドネシアの国章にもなっています。この「ガルーダ」に安全で快適な空の旅をお届けしたいという願いを託し、運航しております。
- 季節に合わせたお食事を、厳選素材を使用して用意しております。インドネシアのビールやコーヒー、紅茶もご堪能ください。
- エグゼクティブクラスも42席をご用意しています。機体前方から2席ずつの配列でゆったりとお過ごしいただけます。

詳細は [www.garuda-jpn.com](http://www.garuda-jpn.com)  
日本語ホームページではWEB会員を募集中(入会金・年会費はありません)。年間を通して様々なキャンペーンを実施しており、お得な情報が満載。オンラインで予約をすると、豪華ヴィラ無料宿泊券やレストラン・スパ利用券が抽選で当たるなどさまざまな特典が用意されています。



問い合わせ  
ロイヤルシルク財団  
TEL03-3911-7540  
カリマンタンツアーディベロップメント  
TEL+62-811-520-648  
E-mail [kalimantantours@gmail.com](mailto:kalimantantours@gmail.com)  
\*小船に乗り換え、ダヤク族の村やオラウータンの保護施設を訪れる

ガルーダ・インドネシア航空が取り組むカーボンオフセット運動

バリインドネシア各地域、バリ島への直行便を運行するガルーダ・インドネシア航空は、母国の豊かな自然を守る運動に取り組んでいる。一人の搭乗でインドネシアに一本の木が植樹され、航空機運航に伴い排出される二酸化炭素を植樹する木で吸収しようとする「カーボンオフセット」と呼ばれる取り組みだ。例えばジャワ島の豊かな森には「クリキユラ」と呼ばれる黄金色に輝く繭を生み出す蚕が息をし、この繭から工芸品を生産することで、雇用の促進や生計向

上が図られている。ジョグジャカルタ王室バンブン第一王女が主宰するロイヤルシルク財団はこの活動を支援するために、繭を生み出すための植樹活動を行っているが、ガルーダ・インドネシア航空も参画し、「人と自然の共生」の可能性を広げているのだ。(ロイヤルシルク財団 <http://www.jog-jakarta.com>) またカリマンタン島、バランカラヤのセバンガウ国立公園ではWWFインドネシアと提携しての植樹活動も行っており、園内に生息する2500頭の野生のオランウータンの保護にも繋がっている。今年2月にはセバンガウ川でのエコクルーズも開始。2日間、5日間のプログラムが組まれている。(ライハイ・イ・パンダ <http://www.woborneo.com/>)